

「教会の祈りとキリスト教保育」

九州部会長 佐藤真史(荒尾めぐみ幼稚園)

任期最後のニュースレターであり、せつくなので「牧師園長」として、教会と幼稚園・こども園・保育園の繋がりについて触れたい。

キ保連に所属する各園の多くは教会由来であり、いまでも密接に互いが繋がっている。けれども、関係が薄くなっていたり、場合によっては拗れてしまい、教会と園が実態として離れてしまったケースも増えてきている。一概に言えないが、おそらくどちらにも欠けがあり、ボタンの掛け違いがあったのだろう。わたしが遣わされている日本キリスト教団荒尾教会・荒尾めぐみ幼稚園も決して他人事ではなく、これまでの歴史の中で同様の危機が何度も訪れている。そういったことを聞いたときに、残念な気持ちを抱くのはわたしだけではないだろう。

ある加盟園の牧師園長と話しをする機会があった。その教会では、毎日教会員が園のために祈ることを約束しているそうだ。「月曜日は〇〇組の先生、火曜日は〇〇組…」と。しかも顔と名前が一致するように、写真入りのカードを作っている。先生たちには、そのようにして教会員の方たちが祈っていることを折に触れて伝えている。

いま教会と園に必要なのはまず「祈り」なのだと気付かされた。九州部会において各園の関係教会の多くは、小さな地方教会だと思う。信徒数よりも職員数の方が多いのではないだろうか。けれども、園の日々において課題や苦難は、組織的にも個人的にも尽きない。その時に、一人でもよいから、教会の〇〇さんが自分のことを祈ってくれていることを知る時、どれだけ励まされるだろうか。そして、子どもたちと喜びあふれる出会いが与えられた時に、この出会いのために、祈ってくれている人がいることに気付かされる時ほど、神の愛を実感することはない。

イエス・キリストは祈ってから神の愛の働きへと出かけた(マコ 1:35)。このことは、祈りからキリスト教保育が始まることを伝えている。教会は園のために祈っていこう。そして園も、教会からの祈りを覚え、子どもたちのために教会のために祈っていこう。